

長期ビジョン(中間案)パブリックコメントに対する京都府の考え方

区分	ご意見・ご提案(要旨)	京都府の考え方
全 体	<p>単年度の事業・施策をしっかりと実行していくためには、地球環境や社会情勢の時々刻々の変化等をみきわめつつ、点検、見直しを行いながら進めてほしい。</p>	<p>この長期ビジョンは10年先、20年先を展望して、これからの京都府がめざす社会をお示していますが、変化の激しい今の時代に、的確に、また機動的に対応していくよう、併せて4年から5年間の戦略を中期計画として策定します。この中期計画には、京都府のなすべき「使命」を示し、何をどのように変えていこうとしているのかを「成果目標」として数値を含めお示しします。そして実施にあたっては、年度々々の予算編成などを通じてしっかりと点検・見直しを行い、その結果を府民の皆様にもご覧頂きながら進めていきたいと考えています。</p>
	<p>このビジョンを実現していくために、どこに重点をおいて進めていくのか、また、これまでの取り組みとどう変わっていくのか教えてほしい。</p>	<p>時代の変化の中で様々な課題が生じ、暮らしや将来への不安に包まれている現状にあると考えています。こうした現状の中で、この長期ビジョンでは、まず、府民の皆様の安心を再構築し、信頼と絆でつながった地域共生の社会を実現することで、皆様が力を発揮できる暮らしの基本を整え、そして、様々な活動や取組を応援することで、新しい京都への道を拓いていきたいと考えています。こうした基本方向をもとに政策面では、これまでに整備してきた社会基盤などを十分に活かしながら、きめ細やかなソフト政策に力を入れていきたいと考えています。</p>
	<p>長期ビジョンの現状等はもう少し明るい表現とならないか。</p>	<p>この長期ビジョン・中期計画では、府民の皆様が置かれている現状を様々な角度から分析し、それらを踏まえて、新しい京都づくりに向けて、何を、どのように、変えていこうとしているのかを明確にしています。このためしっかりと予断をもたず、客観的に現状を把握することが大切であると考え、そのような表現としています。</p>
ビ ジ ョ ン	<p>「こころの時代」とはどのような意味で使っているのか教えてほしい。</p>	<p>地球規模での環境問題を始め、わが国における経済・社会のグローバル化等がもたらしてきた様々な社会問題などを背景に、私達は「量」から「質」へと考え方を換え、「もの」の豊かさを追い求めた時代から、人と人の絆を結びすべてのものを思いやる「こころ」の豊かさを求める時代へと転換していくことが大切であると考えています。そしてこの長期ビジョンの実現に向かう中で、こうした新しい「質」と「こころ」の時代にふさわしい生き方や暮らし方、人と自然の関わり方や持続可能な経済のあり方を実践し、世界に示していきたいと考えています。</p>
	<p>地球環境への対策が何よりも重要。京都はその先頭に立って、世界をリードして欲しい。</p>	<p>人類は今、地球規模での環境問題や、資源・エネルギー・食料などの課題に直面しています。この長期ビジョンでは、この京都が、京都議定書の締結地であることはもとより、府民の生活の中に自然と調和する生活文化が息つき、大切に受け継がれてきていることから、こうした課題や問題を解決し、さらに発展の機会としていけるものと考え、「質とこころの時代を先導し、世界に発信し貢献する」ことを大切な価値観としてお示しています。</p>
め ざ す 社 会	<p>観光産業の振興では観光客の利便性向上が住民の不便になる場合があるなど、記述にある「だれもが」を明確にすべきではないか。</p>	<p>この長期ビジョンは府民お一人おひとりの生き方や暮らし方に視点をおいて、将来こうありたいと考える社会を描いています。そうした社会のひとつとして「めざす社会の姿」にお示したように、新しい時代の京都では、環境と開発や経済と文化、さらに都市と農村などといった、これまで対極的に語られがちであった価値観が高い目標のもとで調和し、さらに新しい価値が創り出されるような京都をめざしていきたいと考えています。</p>
	<p>多様な組織や個人が本当に対等な立場で水平的に結びつくことが可能か。</p>	<p>これからの地方分権・住民自治の時代において、府民の皆様の多様な暮らしを支え複雑化する問題にこたえていくためには、行政だけではなく、多様な団体や組織・個人のそれぞれが社会的責任と役割を担いつつ、ともに連携し、協働する中で課題に対応していくことが大切であると考えています。</p>
	<p>政策には、問題を解決する側面に併せて、社会状況の変化の中で新たな問題を発生させる側面もあると思うが、そうしたことも踏まえて政策を提示してほしい。</p>	<p>この長期ビジョンでは、人類が地球規模での環境問題や食料やエネルギー等の課題に直面する中で、この京都から、これまでの「量」や「もの」を追い求めた暮らしから「質」や「こころ」の豊かさを求める暮らしへの転換を果たしていきたいとの考えのもと、こうした問題や課題を発展の機会として捉え、府民の皆様の叡智を結集することで、これまで対極的に語られがちであった価値観が、しあわせを実感できる希望の京都づくりという、より高い目標のもとで調和し新しい価値を創り出すことができると考えています。そうした社会の実現には、まず府民の皆様が安心社会を再構築するとともに地域の共生を実現することで課題を解決し、その上立って、京都の持つ力を最大限発揮していけるような政策を進めていきたいと考えています。</p>
	<p>より高い目標のもとで調和するとはどのようなことを意味するのか。</p>	<p>この長期ビジョンでは、人類が地球規模での環境問題や食料やエネルギー等の課題に直面する中で、この京都から、これまでの「量」や「もの」を追い求めた暮らしから「質」や「こころ」の豊かさを求める暮らしへの転換を果たしていきたいとの考えのもと、こうした問題や課題を発展の機会として捉え、府民の皆様の叡智を結集することで、これまで対極的に語られがちであった価値観が、しあわせを実感できる希望の京都づくりという、より高い目標のもとで調和し新しい価値を創り出すことができると考えています。そうした社会の実現には、まず府民の皆様が安心社会を再構築するとともに地域の共生を実現することで課題を解決し、その上立って、京都の持つ力を最大限発揮していけるような政策を進めていきたいと考えています。</p>

めざす社会	思いやりを大切に、いつまでも住み続けたいと思えるような京都にしてほしい。	この長期ビジョンでは、まず、人と絆を大切に京都として、個人の尊厳と人権、多様な価値観・生き方が尊重されるために人々が助け合い一体感のある社会を築き、そのもとで、自立し、自分の夢の実現に向かってもてる力を存分に発揮できる社会をめざすこととしています。
	一人ひとりを大切に考え、命が大切にされる社会をめざしてほしい。	
	行き過ぎた社会福祉は他者依存を強めることとなる。セーフティネットとして充実させる必要はあるが、そうした制度に世話にならないことがしあわせな生き方であるとする。	
	「多様な価値観を尊重」ということは、一体感のある社会の構築にはならないのではないか。	
	「すべての地域が輝く」ことは現実にはあり得ないとする。	地域に暮らす人たちが生き活きと活動することで地域が輝き、住民の皆様にとって誇りや愛着のある地域としていくことが大切であると考えています。このため、長期ビジョンでは、すべての地域で、個性と豊かな地域資源を活かした地域づくりの展開を基本方向としてお示しています。
基本方向（府民安心の再構築）	暮らしやすい社会づくりをしてほしい。	暮らしや将来への不安の中で、閉塞感のようなものが漂っている現状にあると考えています。このため、この長期ビジョンでは、府民お一人おひとりの生き方や暮らしに視点を置いて、「子育て・子育て」から「学び」や「働き」、「医療・福祉」や「長寿」、さらに「暮らし」に至るまで、府民の皆様の「安心」を再構築していきたいと考えています。
	今の時代を息苦しく感じており、安心して子育てのできる社会をつかってほしい。	急速に少子高齢化が進む中で、安心して子育てできる環境づくりは大変重要な課題であると考えています。この長期ビジョンでは、育児や保育で孤立することなく社会全体でサポートし、子供の権利もしっかり守られた社会をめざすこととしています。
	安心して子育てできる環境をつかってほしい。	
	人口が減少していくなかで、これからの老後が不安。高齢者でも社会に役立ち、生きがいのもてる社会となるようにしてほしい。	少子化・高齢化が進み、人口減少社会・長寿社会を我が国は迎えようとしています。この長期ビジョンでは、そうした中にあっても、だれもが人間らしく、生きがいをもって人生をまっとうし、健康長寿をこころから喜べる京都をめざし、健康で突然の病気やけがにも困ることのないような社会や、療養・介護や生きがい・やりがいづくりを通じて長寿を謳歌できる社会づくりを進めることとしています。
	私達には子供が居ません。将来年を取ったら、生活や介護がどうなるか不安です。年を取っても安心して暮らせる町にして欲しい。	
	お年寄りが孤立しない社会にしてほしい。	
	元気な老人を維持し、老人自身が自分でもがんばれるような政策を考えてほしい。	
	子どもたちに社会を体験させるなどして、社会に導いていけるような教育を進めてほしい。	新しい京都を担う人づくりは大変重要な視点であると認識しています。この長期ビジョンでは、子供たちに知力や体力とともに、思いやりの心や環境・文化を大切に育む心、社会参画や規範の意識などの人間力を育み、高めていける教育を進めていくこととしています。
	人づくりで重要なのは教育であり、しっかりと徳のある教育を進めてほしい。	
	救急車両が通っても意識しない通行人などを見かけることがあるが、教育現場などで、もっと命の大切さや理解を深めることが大切とする。	
	「障害者」という表記を改めてはどうか。	「障害者」の表記につきましては、一部の府県等において、公文書や組織名などをひらがな表記に変更している例がありますが、障害者基本法をはじめとする国の法令等においてはひらがななどへの変更はされておらず、また、障害者団体等の名称についても従来からの漢字表記を用いているところも多く、表記の変更の是非については、関係団体や当事者の方々など、幅広い御意見を伺う必要があると考えています。京都府では、障害のある人もない人も、ともに社会の一員として、安心していきいきと暮らせるようノーマライゼーションの推進に向けた条例の制定を進める（中期計画を参照ください。）こととしており、ご提案頂きました「障害者」の表記につきましても、併せて議論していきたいと考えています。

	障害のある人の社会参画や地域での支援の取り組みを進め、障害のある人が孤立することがなくなるのが大切と考える。もっと障害のある人を大切に作る社会であってほしい。	個人の尊厳と人権、多様な価値観・生き方が尊重されるために人々が助け合い一体感のある社会を築き、そのもとで、自立し、自分の夢の実現に向かってもてる力を十分に発揮できる社会をめざすこととしており、障害のある人も孤立することなく、生きがいを持ってらせる安心社会を実現していきたいと考えています。
	職歴・経験を問わずに誰もが安心して、働けるような社会にしてほしい。	この長期ビジョンでは、だれもが自由で、働くことを望む人みんなが働く機会に恵まれ、一人ひとりがそれぞれの個性や能力に応じて、持てる力を十分に発揮できる希望とやりがいのある社会に生きたいとの願いのもとで、安心社会の実現をめざしています。
基本方向 (地域共生の実現)	「だれもが自分らしく生きる社会」は、自己のぶつかり合いを助長すると考える。	この長期ビジョンでは、行き過ぎた自己中心主義を見直し、思いやりと温かいところでつながり合った社会を実現していくことで、一人ひとりが自分らしく生きていくことのできる社会を目指していきたいと考えています。
	隣近所の交流がもっと盛んになり、顔の見える関係づくりを進めてほしい。	多様な組織や個人が対等な立場で水平的に結びつき、そして自由闊達に活動することで社会に進歩と活力が生まれるような社会をめざしていきたいと考えており、地域社会が信頼の絆で結ばれ、つながり、支え合う互助・互惠の京都づくりが大切であると考えています。このため、基本方向(地域共生の実現)では、地域の課題解決に向けて地域みんなが連携・協働する地域力再生の社会や、これまでの地縁団体に加えて新しいタイプのコミュニティのある社会づくりをめざすこととしています。
	子供が安全に地域の中で安全に暮らしていけるようにしてほしい。	
	自治会を含め地域社会の様々な団体が生き生きと活動し、安心して暮らしていける社会をめざしてほしい。	
	安心して、長く住み続けることのできる京都であってほしい。	長期ビジョンでは、この京都に住み続けていただけるよう、地域の個性や魅力を上げるとともに、生きがいややりがいのある働く機会、暮らしに必要な基盤等を整えていくこととしています。
すべての地域が住みやすいのであれば、生まれ育った土地にこだわる必要はないと思う。	生まれ育った土地へのこだわりは、住みやすさに加えて、その土地やそこに暮らす人々への愛着など様々な要因から醸成されるものと考えています。	
基本方向 (京都力の発揮)	自然を大切に作る政策を進めてほしい。	この長期ビジョンでは、新しい「質」と「こころ」の時代の要請に応える生活を実現していきたいと考えており、このため自然環境と調和した暮らしの実現や生き物を含めて大切な自然を守っていくことを基本方向にお示ししています。
	京都の伝統産業やものづくりの技術などがしっかりと継承していけるような社会をつくってほしい。	この京都には豊かな感性と精緻な技に培われた伝統文化や芸術文化が受け継がれ、その多くはものづくりに携わる方々やそうした方々の技術で支えられてきました。こうしたことを背景に、この長期ビジョンでは、多くの府民の皆様にも文化活動を楽しんでもらい、芸術に親しんでもらえる京都づくりをめざすとともに、様々な交流から生まれる新たな生活文化を創造していく中で、大切な伝統産業などを継承していきたいと考えています。
	世界有数の魅力ある国際観光都市という自覚ある行政を望む。また、グローバルな視点から国際社会のモデルとしての取り組みを期待する。	この長期ビジョンでは、経済・社会のグローバル化が進む中で、地球環境問題や長寿社会の到来を経済・社会の新たな発展の機会として捉え、世界に誇る伝統文化や芸術文化、観光文化はもとより、世界水準の学術研究文化などにも多くの人にふれてもらい、そして親しみ、交わることで新しい文化を生み出していけるような京都をめざしたいと考えており、そういう視点のもとで、観光などの産業や、世界の人々との交流を進めていきたいと考えています。
	このビジョンでは、どのようなものをターゲットにして京都経済の発展を考えているのか。	この長期ビジョンでは、量の追求から質の向上へと向かう生活革命の始まりを京都産業にとっての発展の機会として捉え、京都経済を支えてきた中小企業の経営をさらに安定したものとしながら、未来に向かって産業のイノベーションが進む京都をめざしており、世界に誇れる新しい京都ブランド産業やこれまでの伝統なども活かした生活文化産業等を育てるとともに、世界を視野に入れた集客や交流産業などを育成していきたいと考えています。
	ビジョンや計画には、京都府の抱える様々な課題が網羅されていて良いと思うが、京都府には、国際的にも多くの人々が集まるので、そういう視点で「平和」をどのように築いていくのが大切であると思う。	この長期ビジョンでは、府民一人ひとりの生き方や暮らし方に視点をおいて、将来こうありたいと考える社会をビジョンとしてお示ししていますが、その社会に向かっては、府民の皆さんの安心と地域の共生を実現し、そして府民一人ひとりはもとより、全ての組織や地域が生き生きと活動できる京都づくりを進めていくことが、平和な社会をつくっていくことにつながると考えています。とりわけ、京都府には世界中から多くの人々が集い、生活されており、そうした方々との交流も進め、さらに地域に溶け込んで暮らしていただけるようにしていきたいと考えています。